

学校法人 河原学園 未来高等学校 R7年度年間指導計画

| 教科   | 地理歴史  | 科目             | 地理総合   | 学年   | 2年次      | 単位数   | 2単位 |  |
|--|---|----------------|--|--|----------|---|-----|--|
| 教科書  | 東京書籍 地理総合   |                |  | 副教材  |          |   |     |  |
| レポート<br>添削指導   | 6通  | スクーリング<br>面接指導 | 2回   | メディア<br>視聴票  | 1通       | 試験  | 2回  |  |
| 指導目標   | <p>①地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>②地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>③地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深める。</p> |                |  |  |          |   |     |  |
| No   | 日付  | レポート<br>提出日    | 単元   | 学習内容   | 面接<br>回数 | メディア(NHK高校講座)   |     |  |
| 1  | 4月12日   | 5月22日          | 第1章 私たちが暮らす世界<br>第2章 地図や地理情報システムの役割  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○地図にはさまざまな種類が存在することについて理解する。</li> <li>○地球を平面の地図では正確に表現できないことを理解し、地図の種類に応じた用途の多様性を考える。</li> <li>○私たちの生活にさまざまな地図が利用されていることを理解する。</li> <li>○多様な地図が生活を便利にしていることを理解し、地図利用のさまざまな可能性を考える。</li> </ul> |          |   |     |  |
| 2  | 5月22日   | 6月19日          | 第3章 資料から読み取る現代世界   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○交通手段の多様性とその長所・短所について理解します。</li> <li>○交通手段の発達による生活の変化を考えます。</li> <li>○通信情報技術 (ICT) の発達について理解します。</li> <li>○通信網の発達による生活の変化と生じた課題について考える。</li> </ul>  | 1        | <ul style="list-style-type: none"> <li>1 地球上で暮らすってどういこと？～地球上の生活～</li> <li>2 G I Sって何？～G I Sと地図～</li> <li>3 何がグローバル化しているの？～グローバル化～</li> <li>4 大地は動いている？～大地形と生活～</li> <li>5 暮らしは地形と結びついている？～地形と生活～</li> <li>6 なぜ気候の違いが生まれるの？～気候の成因と生活～</li> <li>7 気候が変われば暮らしも変わる？～各気候の生活～</li> <li>8 世界のさまざまな暮らしとは？～言語・宗教と生活～</li> <li>9 歴史は暮らしにどう影響している？～歴史と生活～</li> </ul>   |     |  |
| 3  | 6月19日   | 7月17日          | 第1章 人々の生活文化と多様な地理的環境<br>1節 生活文化の多様性と国際理解<br>2節 生活文化と自然環境①地形<br>3節 生活文化と自然環境②気候 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域によって文化が異なる理由について理解し、文化は持続することもある一方で、変容することもあることを学ぶ。</li> <li>○山地におけるさまざまな暮らしの工夫について理解し、山地における自然的、文化的なめぐみに気づき、その利用について学ぶ。</li> </ul>  |          |   |     |  |
| 4  | 7月17日   | 10月29日         | 4節 生活文化と産業   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○自然環境の面から、食生活の地域差について理解し、社会環境の面から、農業形態の地域差について学ぶ。</li> <li>○工業立地について理解し、労働集約的な工業の立地が移動する理由や新興工業国と先進国との工業の違いが生じる理由について学ぶ。</li> </ul>   |          | 1   |     |  |
| 5  | 10月29日  | 11月27日         | 第2章 さまざまな地球的課題と国際協力<br>3節 人口問題<br>4節 食料問題<br>5節 居住・都市問題                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○18世紀後半以降から現在にかけての世界の人口推移とその背景を理解し、発展途上国が抱える人口問題の要因・影響を考える。</li> <li>○食の安全に関する問題について知り、その対策について理解する。</li> <li>○発展途上国の大都市における生活や都市環境の変化から居住問題について理解する。</li> </ul>                              | 1        | <ul style="list-style-type: none"> <li>10 ものづくりが暮らしを支えている？～生産する産業と生活～</li> <li>11 新しい産業で暮らしはどう変わる？～現代の産業と生活～</li> <li>12 持続可能な社会って何？～地球的課題と地球環境問題～</li> <li>13 エネルギーをどう使えば持続可能？～エネルギー問題～</li> <li>14 人口問題を解決するには？～人口問題～</li> <li>15 世界に飢餓と飽食があるのはなぜ？～食料問題～</li> <li>16 都市ではどのような問題が起こっている？～都市問題～</li> <li>17 日本の地形と災害とは？～日本の地形と自然災害～</li> <li>18 日本の気象と災害とは？～日本の気象と自然災害～</li> <li>19 防災にどう向き合う？～自然災害と防災～</li> <li>20 地域の課題をどう解決する？～持続可能な地域づくり～</li> </ul> |     |  |
| 6  | 11月27日  | 1月23日          | 第1章 自然環境と防災<br>1節 日本の自然環境の特色<br>第2章 生活圏の調査と地域の展望                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>○日本の地形の特徴が河川や海岸の特徴にどのような影響を与えているかを理解する。</li> <li>○プレート境界地震とプレート内地震の違いについて理解する。</li> <li>○身近な地域の変遷を新旧地形図の読み取りなどから理解する。</li> <li>○身近な地域の課題に対して異なるスケールを織り交ぜて考察し、調査テーマを設定する。</li> </ul>           |          |   |     |  |
| 学習の成果に係る評価規準   |   |                |  |  |          |   |     |  |
| <p>【知識・技能】</p> <p>○地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解している。</p> <p>○地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</p>  |   |                |  |  |          |   |     |  |
| <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <p>○地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。</p> <p>○考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。</p>   |   |                |  |  |          |   |     |  |
| <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>○地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p> <p>○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などが深まっている。</p> <p>○上記の評価規準に基づき、レポート及び課題等の提出物の状況、スクーリングに取り組む姿勢及びスクーリングに基づく成果、前期・後期2回の試験結果を総合的に判断して、評価を行う。</p> <p>○【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学習に取り組む態度】の3つの観点ごとに、それぞれ上位からA、B、Cの三段階で評価を行い、その観点別評価に基づき、総合的な評価を5段階（最上位を5とし、最下位を1とする）で評価する。</p> |   |                |  |  |          |   |     |  |
| 単位の修得の認定に関する基準   |   |                |  |  |          |   |     |  |
| <p>観点別評価に基づいて総合的に評価された5段階評価のうち、5～2の評価を受けた者に対して、科目に配当された単位数の修得を認める。</p>   |   |                |  |  |          |   |     |  |